

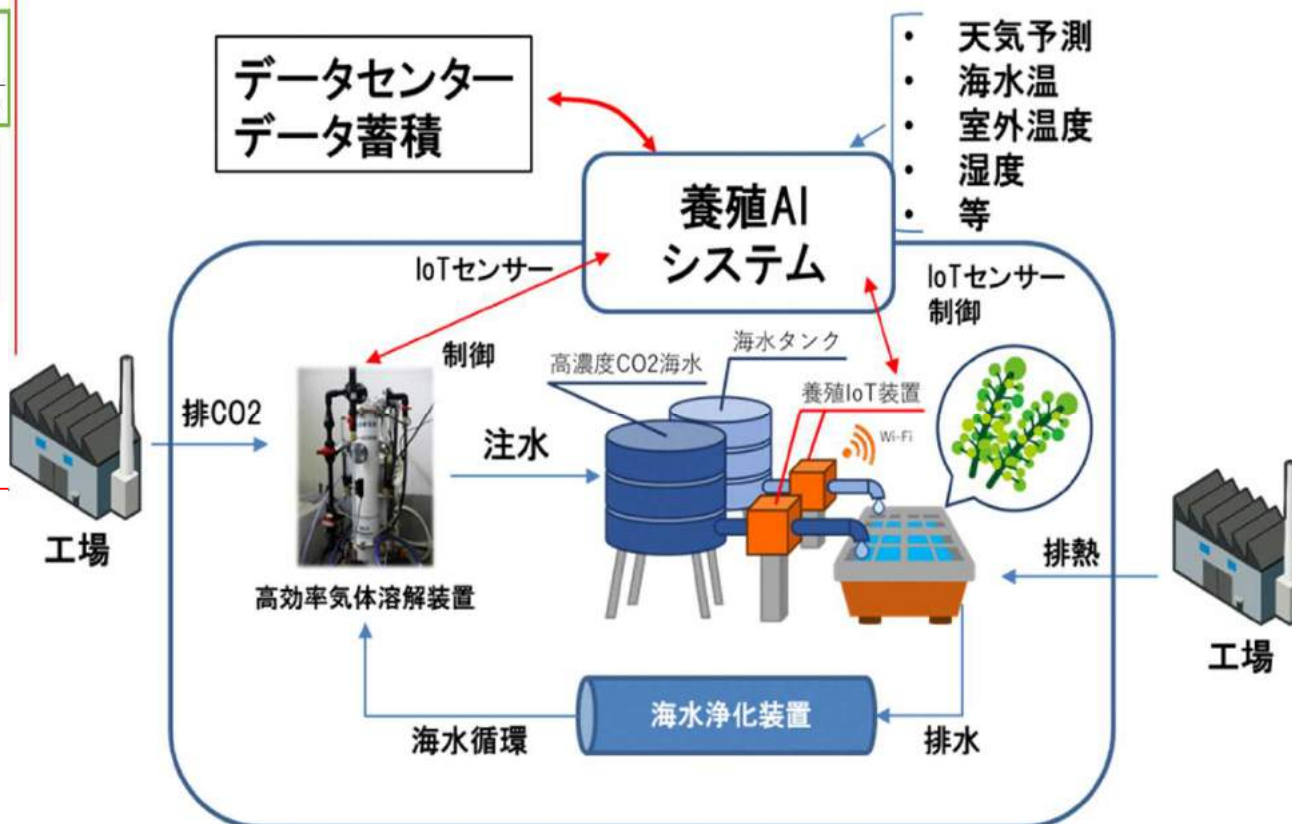
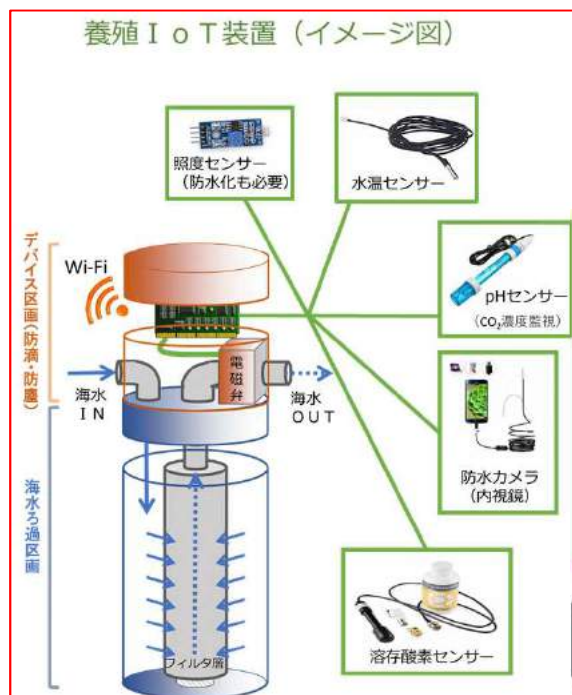
IoT利活用促進ネットワーク基盤構築・実証事業

テーマ①：養殖IoT装置を用いたAIシステムの開発

事業者名：株式会社オーシーシー

機能：

1. AI(人工知能)による注水・止水の制御
2. 海水の簡易的なろ過機能
3. 各種センサーからデータ収集



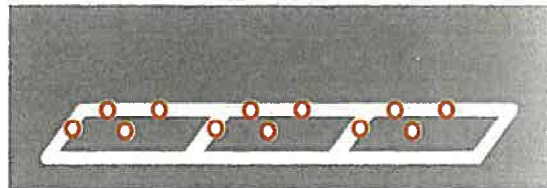
IoT利活用促進ネットワーク基盤構築・実証事業

テーマ②：駐車場空車管理システム

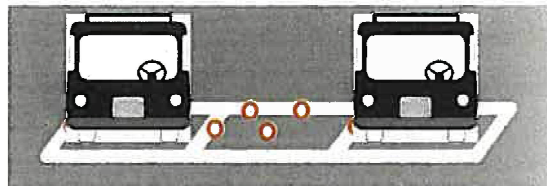
事業者名：沖縄セルラー電話株式会社

- ・画像(映像)解析により、空車時の状態と差異を判別し車が停車しているかどうかを判別する。

判定元の画像を用意、特徴点を記録

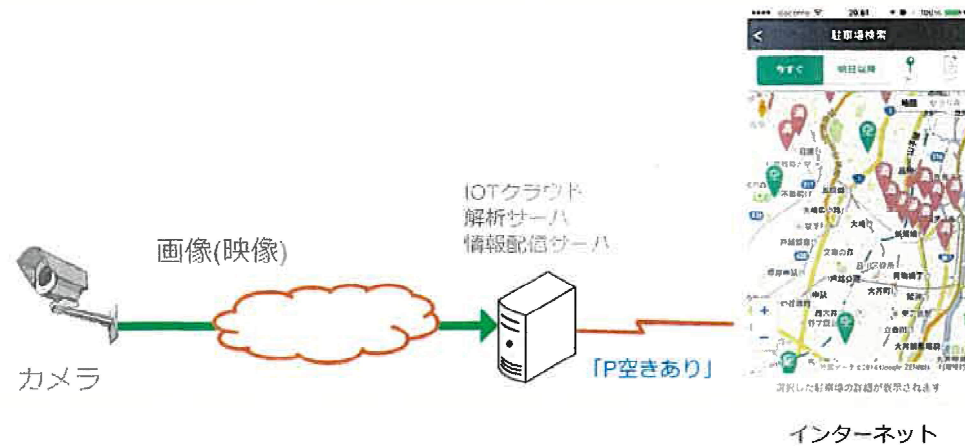


- ... 空き判定ポイント
全部空いていると判断



真ん中のみ空いていると判断

空き判定ポイントが全て埋まっていると
解析した場合、駐車場「満」と判断



- ・カメラが配置できれば、低コストで実現可能

- ・駐車場の構成により複数カメラが必要であったり、
解析が難しい場合もある
- ・認識精度は判定プログラムに依存

IoT利活用促進ネットワーク基盤構築・実証事業

テーマ③：道の駅/観光施設の来場者の客層分析

事業者名：NECソリューションイノベータ株式会社沖縄支社

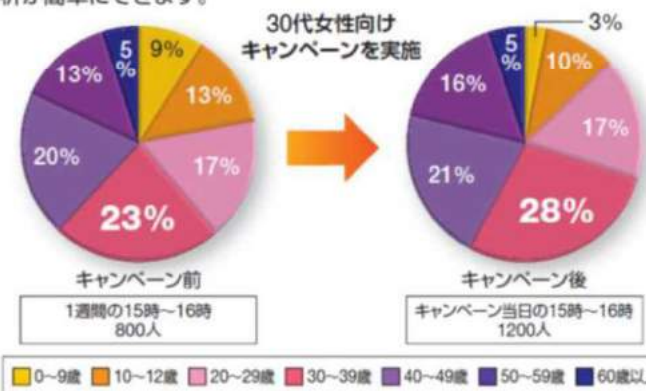
様々な施設の入り口に設置したカメラを用い、リアルタイムで来場者を分析します。

「どんな人が来ているの？」人手に頼らず性別・年齢を自動推定。
データはリアルタイムで自動集計され、ブラウザで参照可能です。
いつでも、どこからでも、知りたい情報が得られる！

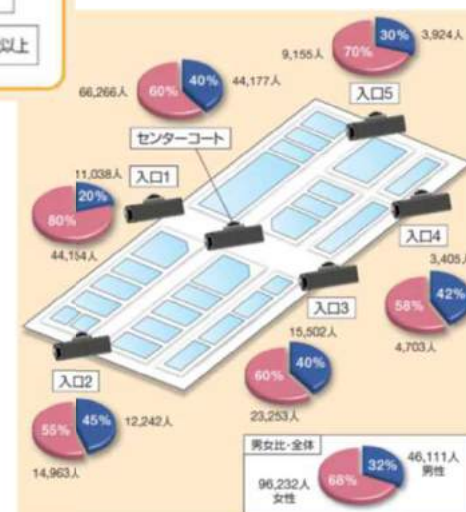


活用例1：ターゲット分析

ターゲット層のお客様がどのくらい来店しているのか把握できます。
また、キャンペーン(催事)の実施前後で、ターゲットとしていたお客
様が来店したのか、来店者属性に変化があったのか、といった比較分
析が簡単にできます。



FieldAnalyst



IoT利活用促進ネットワーク基盤構築・実証事業



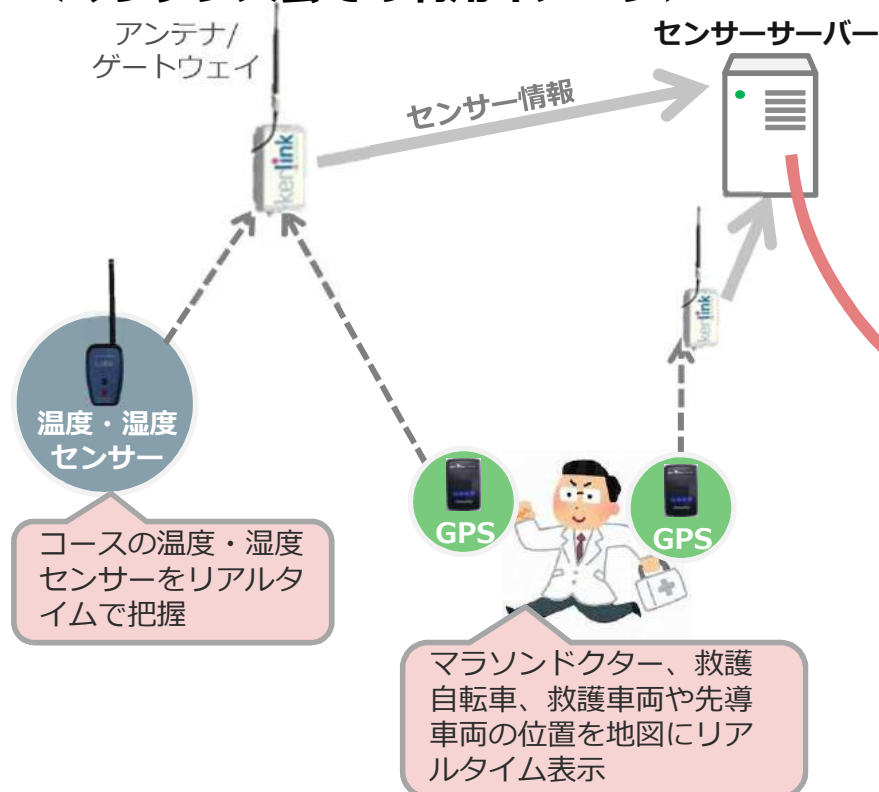
テーマ④：イベントの安全且つ円滑な大会運営の実証

事業者名：NTT西日本沖縄支店

【背景・課題】 沖縄県においては、マラソン大会をはじめ高温/高湿度の中で開催される屋外でのイベントも多く、イベント参加者の安全確保が求められている

【実証内容】 マラソン大会において、マラソンドクター等の救護班にGPSセンサを取り付け運営本部の指示により迅速な救護対応ができる仕組み、及びコース各所での暑さ指数を運営本部において一括で把握できる仕組みを、コース上に設置したLPWAのアンテナを介し提供することにより、運営本部での情報の管理/分析を容易とし、安全且つ円滑な大会運営に寄与する（11月の尚巴志マラソンにてフィールド実証を実施）

＜マラソン大会での利用イメージ＞

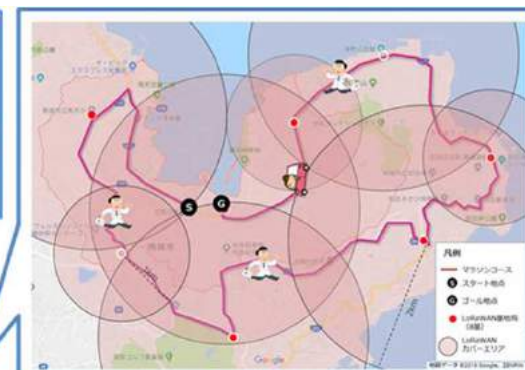


レース中 (大会運営本部向け)

・マラソンドクターの位置やコース上の温湿度をリアルタイムに地図上で確認。

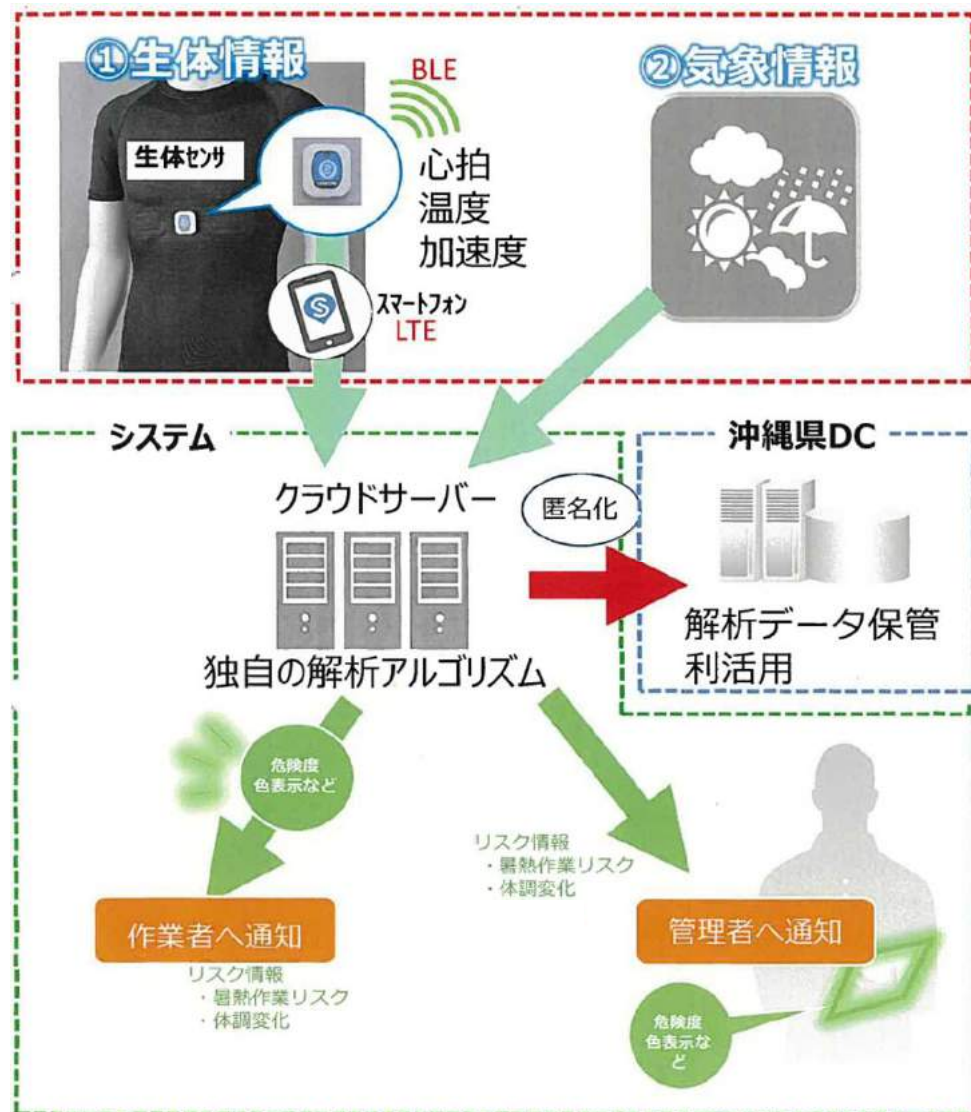


【大会本部】



IoT利活用促進ネットワーク基盤構築・実証事業

テーマ⑤：IoTスマートウェアを活用した建設作業員の健康管理に関する実証



①沖縄県独自のアルゴリズム解析に向けたデータ収集・評価の実施

②現場作業員・現場管理者へのアンケートを基に、各項目に対する評価の実施

①
アルゴリズム解析に向けたデータ
収集・評価の実施

⇒セキュリティ確保や取得データ
有用性などを検証すべく、データ
抽出における課題を洗い出し、研
究開発側にフィードバックしてい
く。

②
現場作業員・現場管理者
それぞれに対してアンケート実施

⇒システム／インターフェース／
データ／着心地などのウェア関連
のそれぞれの課題を抽出し、より
安全で確実な方法を研究開発側に
フィードバックしていく。



<収集したデータの利活用目標>

解析した『沖縄独自の暑熱環境アルゴリズム』を基に、
県内建設事業者向けに工事現場での「熱中症」に関する指標
また「熱中症」注意喚起の指標として活用することが可能